

まちなかお宝発見シンポジウム

第3部 シンポジウム 記録(概要版)

開催日時 令和4年9月17日(土) 午前11時40分から午後0時30分

開催場所 伊勢崎駅南口駅前広場

参加者 進行役 堤 洋樹 (前橋工科大学准教授)

登壇者 秋山麻紀 (まきばプロジェクト代表)

高山華代 (まちなか宝さがし優秀提案グループ代表)

臂 泰雄 (伊勢崎市長)



1. テーマ「まちなかの宝を発見し、磨いて、使う」について

高山

今回参加したワークショップで作成したプラン実現のため、まちなかの店舗や施設等と話をした。「いせさき楽市」が開催される第三土曜日には、いせさき明治館周辺で「燈華会」、駅前では「いせさき楽市」「高校生フェスタ」と多様な催しがあり、市のどこの担当課に私たちのアイデアを相談すればよいか分からなかった。本日参加の秋山さんが市の複数の部局とつないでくれたが、新しいことを始める時に、相談できる場所があれば良いと感じた。

堤

部局ごとの取組みが統一されていないのはどこの自治体でも同じ。共有できる場や機能が伊勢崎市のまちなかにおいても必要。

秋山

伊勢崎市にはそのような機能を設ける必要がある。市民が関わりたいと思う時に関われる場所がない。私も以前は経験があったが、行政と市民をつなげる機能があれば、市民の活動がどんどん実現する。それを形にするのが、自分のミッションだと思っている。

堤

まずはやりたいと思わないと始まらない。今回のような機会に関わってみることだと思う。

臂

耳の痛い話であるが、伊勢崎市が花開くために必要な意見。私も市民活動をしてきて、考えることはあった。どこかにセクションを作れば成し遂げられることではないと感じており、意識改革、まちづくりへの意識が大切。まちづくりで言えば、商工団体やまちづくり会社の様な団体に関わっていただいて、そこを市がサポートしていくことも必要かと思う。



堤

行政職員も市民であり、市民が、民間が、ではない。施設の建設だけでは継続せず、まちなかを長期的に考えられる人がまちづくり会社をつくることは現状の改善になる。



2. 「まちなかで求める人材」について

臂

昨年、市長になり、「市長は元々よそ者だから好きにやれば良い。」と言われたことがある。客観的によそ者の視点で見ながら、市内の思いを持った人と一緒に活動できる人材が増えてくれるとありがたい。



堤

地元住民が地域を一番知っているのは間違いないが、良いことでも気づかない。人材がいなければ外から、地域住民だけで頑張ろうとしてもうまくいかない。お互いが連携することで別のやり方、解決策がある。

秋山

私も 12 年前に茨城から主人と一緒に移ってきた。伊勢崎市は子育てがしやすいと思ったが、この良さを市民も分かっていない。自分が住む街だから、より良くしたいと活動を始めた。まちづくりの活動はあまり金にならず、関わりたくても出来ない人たちがいる。地域おこし協力隊は給料が出る制度なので、支援を受けて人材を育成することは市にとって重要。

高山

私も出身は高崎でよそ者であるが、現在は住んでいる。今の人は世代的に伊勢崎銘仙が日本中を虜にしていたことを知らず、身近だけれど気づいていない。視点としてのよそ者は必要だと思う。また、世代間で知識や経験にも差があるので、世代間の連携が出来ればよい。

堤

人口が減っており、外から来る人に地元民になってもらう視点で取り組んで欲しい。伊勢崎市は今、一番熱い取り組みをしているが、現場に来なければ分からないことがあり、まずは情報の共有からスタートするべき。ぜひ、自分から動き出して参加して欲しい。今日のシンポジウムも、昔であれば屋外の広場でシンポジウムを行うことは考えられない。しかし、土地や建物にこだわらない考え方が、今後のまちづくりでは当たり前になる。今回、発表された宣言は「人の視点」で考えられており、引き続きその方向で進めて欲しい。



3. 最後にひと言

秋山

この街はすごくきれいになったが、昔は用が無くてもまちに行くと聞く。目的が無くても立ち寄れる場所は重要。足りないハードはソフトでカバーできる。市民が主体的に動く時代なので、やりたいことを声に出して欲しい。いろいろな人のやりたいを集めて「いせさき楽市」は開催している。各々のやりたいことを持ち寄って、大きくしていきたい。

高山

今回、シンポジウムがどういうものか分からず参加したが、駅前広場の開放的な雰囲気が凄く心地良かった。行政と個人、イベント出店者とお客様、その全てが今日の賑わい。自分たちの小さな活動がゆくゆくは広がっていくと感じ、今後の活動が楽しみになった。

臂

大変楽しいシンポジウムだった。伊勢崎から外へ出た人もたくさんいる。田島弥平も海外を歩き回ったように、そういう方を産んだ伊勢崎は可能性のある素晴らしい市だと思っている。様々な視点からの声を聞くことでまちが発展するのだろう。街を創るには、自らが中心となって活動する気持ちが必要だ。放っておけば、何もない場所になってしまう。伊勢崎は今が関わっていただくチャンスだと思う。これからもまちづくりの想いを持った方々と共に市政運営に取り組みたい。

堤

皆さんには、是非、自分の街を歩いて、確認して、具体的な場所を見ながら、次の活用と展開を考えて欲しい。一般論ならだれでも考えられるが、具体的に宝を発掘しなければいつまでも変わらない。準備をしているが進まない、活用されない場所はある。それらを一個一個見つけて、どう活用できるか、個々の事情にどう対応するか、色々な方の声を聞きながら、その中で良い意見を採り上げ続けることでまちが良くなると思う。今日のような機会をきっかけに、まずは知ること。そこからスタートしていただきたい。

以上

